



10 加奈陀ビクトリア港 五姓田義松

明治二十五年（一八九二） 油彩・カンヴァス
 八九・六×一四五・三

五姓田義松が残した日記によれば、本図は明治二十五年四月に宮内省より制作を依頼された二面の油彩画の内のひとつである。もう一面は「田子之浦図」（当館蔵）であった。ビクトリアは、カナダ南西部にあるブリティッシュコロンビア州の州都である。町の中心部に港があり、イギリス海軍の補給所として利用されたことから、一八四九年にイギリスの植民地となり、当時のイギリス女王の名前が町名として冠された。義松は同二十三年一月から父芳柳とともにアメリカへ旅立ち、到着したサンフランシスコで芳柳と別れたのち、同年五月にわずか三日間であるがビクトリアに滞在している。本図はこの滞在の折のスケッチを元に描かれたと推測されている。「田子之浦図」と共通するのは、空と海面を画面のほぼ中央で分割する、横長の安定感のある構図で、水平な視点から眼前に広がる景色をありのままにとらえようという、画家の意図が看取される。一見すると穏やかな港の様子を写した静的な図像に見えるが、微妙に角度を変えた帆船や手漕ぎのボートの配置によって、画面にわずかな動きを生み出す技術は義松の非凡さを感じさせる。経年の汚れのため、薄闇に包まれたようなやや薄暗い画面となっているが、完成当初は空の明るさや水面の階調が丁寧に描きあらわされた美しい絵であったと考えられる。画面左下に「加奈陀ビクトリア港 / Yoshima-Tsu Gocōda / 2552」の画題、サイン、皇紀による制作年が記される。

五姓田義松（一八五五～一九一五）は洋画家五姓田芳柳の次男として江戸に生まれた。父とともに横浜に移り、イギリス人ワグマンに洋画を学んだ。明治十年の第一回内国勸業博覧会に「安倍川富士図」を出品して、洋画としては最高となる鳳紋賞を受賞。同年の明治天皇の北陸・東海道巡幸に随行して各地の風景を描き留めた。十三年に渡仏、レオン・ボナに師事し、同十四年および十六年のサロンに油彩と水彩が入選した。その後、イギリス、アメリカを経由して同二十二年に帰国した。その後は明治美術会の結成に参加、宮内省の依頼を受けるなど、明治二十年代の活動は盛んであったが、晩年の活動はふるわなかつたと伝えられる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections